



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

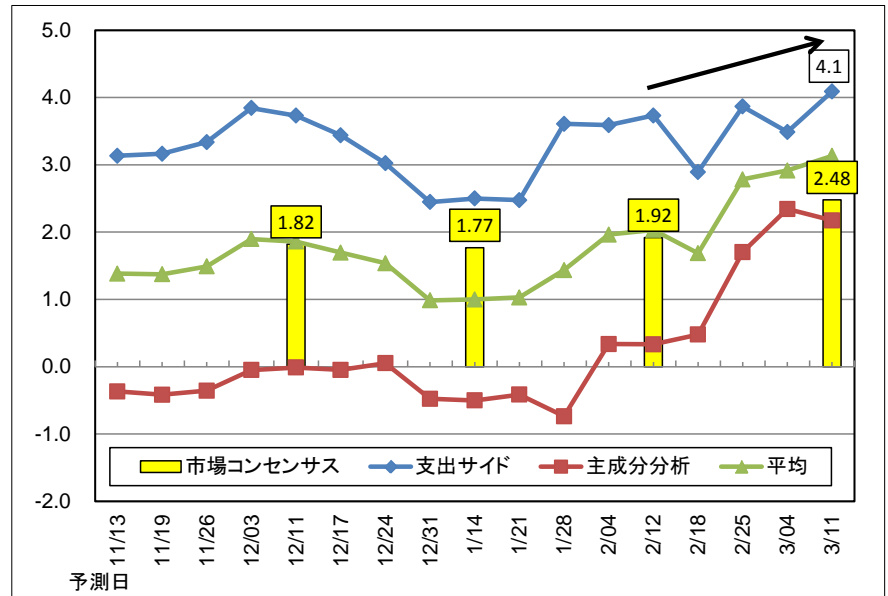
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年3月11日)

ポイント

- ▶先週(3/4-3/8)発表された、1月の毎月勤労統計、消費総合指数、情報サービス業売上高及び国際収支状況が今週の予測で更新された。
- ▶これらのデータは民間最終消費支出、民間企業設備、純輸出及び雇業者報酬の予測に影響する。
- ▶GDP2次速報値によれば、10-12月期実質 GDP 成長率は前期比年率+0.2%となり、1次速報値から0.6%ポイント上方修正。3四半期ぶりに日本経済の底打ちを確認した。
- ▶上方修正の主要因は、民間最終消費支出及び民間企業設備である。
- ▶民間最終消費支出は前期比年率+1.8%から同+2.0%に上方修正された。1次速報値発表後に上方修正の可能性を指摘していたがその通りの結果となった。
- ▶今週のCQM(支出サイド)は、1-3月期の実質 GDP 成長率を、内需の増加幅は拡大し純輸出が反転拡大するため、同+4.1%と予測する。先週の予測(+3.5%)から上方修正された。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013Q1 (%、前期比年率換算)



<10-12月期 GDP2 次速報値は予想通り上方修正。一方、1-3月期成長率予測は3%を超える高成長へ。>

先週(3/4-3/8)は、2月の景気ウォッチャー調査、1月の毎月勤労統計、消費総合指数、情報サービス業売上高、景気動向指数及び国際収支状況が更新された。これらのデータは民間最終消費支出、民間企業設備、純輸出及び雇業者報酬の予測に影響する。

3月8日に10-12月期 GDP2 次速報値が公表された。同期の実質 GDP 成長率は前期比年率+0.2%となり、1次速報値(-0.4%)から0.6%ポイントの上方修正。2次速報値は10-12月期の日本経済が3期ぶりに底打ちしたことを確認した。

実質 GDP 上方修正の主要因は、民間最終消費支出及び民間企業設備である。民間最終消費支出は前期比年率+1.8%から同+2.0%に上方修正された。1次速報値発表後に上方修正の可能性を指摘していたがその通りの結果となった(日本経済(週次)予測2月18日: No.36 参照)。というのも基礎統計である10-12月期の消費総合指数が同+3.8%と民間最終消費支出の同+1.8%(1次速報値)に比してかなり高かったからである。ただし、1月の消費総合指数発表時に10-12月期は同+3.8%から同+2.1%に下方修正されたため民間最終消費支出の伸びは当初の予想より小幅の上方修正にとどまった。

民間企業設備も1次速報値の同-9.9%から同-5.7%へと上方修正された。2次速報値推計の基礎データである法人企業統計調査の結果を反映したものである(全産業ベースの企業設備投資は前期比+0.9%と4期ぶりのプラス)。

新たな月次データを更新し、GDP2次速報値を追加した結果、今週のCQM(支出サイド)は、1-3月期の実質 GDP 成長率を、内需の増加幅は拡大し、純輸出が反転拡大するため前期比年率+4.1%と予測する。先週の予測(+3.5%)から上方修正された。また2012年度の実質 GDP 成長率を+1.1%(先週: +1.0%)と予測している。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550